

明かりがね

竿(さお) = 目標を意識しての努力の方法のお話

先日、4年生の渡辺百葉さんから手作りの「お守り」をいただきました。真っ赤な折り紙を丁寧に折り、その中に心を込めたメッセージが書いてありました。「お守り」と丁寧に書かれた表の上部に、小さく「勉強したい」と鉛筆で書いてありました。また、その中には一枚の紙が入っていて ①勉強したい ②なかよくなりしたい ③長瀬を好きになりたい いろいろな「たい」を考えたいなど、百葉さんが今、思い描いている「たい」がたくさん書いてありました。

そのことをもとに、校長講話で、「竿(さお) = 目標を意識して、努力の方法を考える大切さ」について考えてもらいたいと思い、児童に3本の竿を見せながら話しました。

私達人間は、毎日何かしら「たい」という思いを抱きながら生活しています。朝会時、「もう家に帰りたい」というたいを思っているみなさんはいるでしょうか。(手を挙げる正直な子もいました。) その思いを実現する、つまり「たい」を達成する=釣り上げるためには、**自分で目的 = 「何を」手立て = 「どのような方法」で努力をしていくか**にかかってきます。

ただ「努力」といっても、ただやみ雲に一步を踏み出していけばいいというものでもないのです。何をどのようにを考えずに進むとすることは、真っ暗やみの中を歩くのと同じです。自分の進みたい方向にしっかりと進めるように、自分で**明かり**をつけて確認しながら一步一步進んでいくことが大切です。ここで、私の大切に使ってきた3本の竿を見せます。

①溪流竿 ⇒コンパクト、そんなに長くない、持ち運び便利

⇒どんな魚を釣るための竿でしょう？

答えは、いわなやヤマメなどの川の上流にいる魚をねらうための竿です。

②鮎竿 ⇒長い、遠くにいる魚(人の存在に敏感)を釣るのに適している。

⇒どんな魚を釣るための竿でしょう？

答えは、川の中流の川幅が広がっている場所で石を縄張りとする鮎をねらうための竿です。

③船竿 ⇒深いところまで伸ばせる長い丈夫な糸—それを巻くリール、丈夫な硬い竿

⇒どんな魚を釣るための竿でしょう？

答えは、海で水深が深いところにいる大物をねらうための竿です。



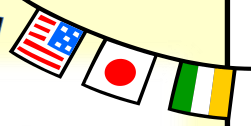
それぞれにそれぞれの用途(目的)があります。一心不乱にがむしゃらに積む努力も大切ですが、何をどのようにという自分の見通し・見方や考えがとても大切になります。見通しをもつということは、自分の目の前を照らす「明かり」をもつということにつながります。その明かりを見つけ、しっかりと明かりをもって前に進んでいってほしいと思います。

例えば、2年生の安達慶君のことを話します。慶君は、運動会の100M競争で、一位になり「たい」という目標ではなくて、こんな「たい」を追い求めています。それは、去年の自分の記録である18秒を少しでも縮め「たい」という「たい」です。ただ、そう思っただけで、何もしない慶君ではありません。この間の休み時間、たった一人で100Mを走っていました。そして、その右手の中には、何があったと思いますか？なんとストップウォッチが握られていました。自分でスタートのスイッチを押し、自分でストップのボタンを押しながら、18秒と戦っていたのです。慶君のすごさや頑張りを感じました。慶君は、自分の傾ける努力の方向性をしっかりと見取り、「たい」を釣り上げるための一番ぴったりの「さお」(=明かり)を見つけながら、自分と競争していたのです。私は、その姿を見て、しっかりと自分の「たい」を釣り上げるための方法や努力の積み上げ方を考えているのだと感じました。きらきら輝く慶君の姿でした。

(文責：校長 沼澤 徹)



暑い夏・・・ようやく秋の風 行事の変更後も元気に活動しています!



PTA 作業できれいにいただいたグラウンド



グラウンドでの遊び禁止



9月26日の練習の様子

今年の夏は例年以上の暑さが続き、2学期が始まって、熱中症指数が高く、グラウンドは使用禁止の日が続きました。運動会の練習もできないため、運動会の開催時期を変更しました。放課後の練習は、いったん中止して、また9月25日から再開しました。30日(土)には、秋の便りを感じながら運動会を開催することができました。その様子は、また次号でお届けします。

異学年交流 (9/15活動ロング)



1~3年 詩の暗唱の紹介



4~6年 英語クイズ

職員作業



創立150周年記念式典に向け、教室廊下、体育館等のワックス掛けを数日かけて行いました。ピカピカです!

3年 市内めぐり (9/21)



空港、大げやき、おーばん、白水川ダム等を見学し、たくさんの発見、経験ができました。

二中学区あいさつ運動 (9/12)



長瀬大好きプロジェクト！ We love Nagatoro！ 地域・保護者の皆様に支えられて*ありがとうございます！



かいがね少年教室
いねかい

長瀬のすてきを見つけた。

あさがおのたね
たくさん！

5年生が、かいがね少年教室で稲刈りを行いました。かかしが成長を見守り、稲も豊かに実りました。実習田では、稲刈り鎌での刈り方や稲の束ね方、杭掛けの仕方などなど初めての体験をしました。自分たちが植えた稲の収穫を経験し、米作りにはたくさんの手間と工夫があることに気づきました。

2年生は生活科で自分の住んでいる長瀬のすてきなどところを見つけようと学習を進めています。今回は1学期に行った町探検をもとに、もっとくわしく知りたい場所に分かれての探検です。仕事の様子を見たり、お店や工場の中を見学したり、熱心に学習しました。たくさんの質問に丁寧に答えてくれた見学場所の皆様、ご協力ありがとうございます。

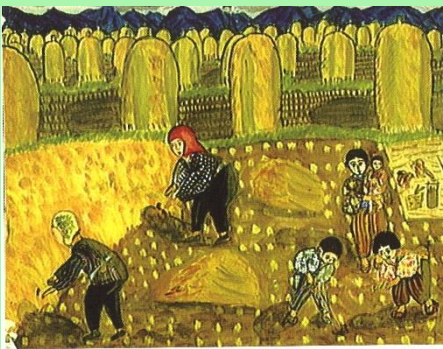
1年生があさがおのたねの収穫をしました。春に植えたあさがおが芽を出し、つるを伸ばし、きれいな花を咲かせて、そして、実になりました。タブレットで記録を残し、植物の成長を見守ってきた1年生です。20個近く取れた人もいて大喜びです。あさがおの成長のように、心も体も成長している1年生です。

残そう！昭和の記憶！守り伝えよう！長瀬の宝！

今年度も画文集『昭和の記憶』を中心に、想画の記憶をたどります。6年生による心に響いた想画の感想を届けます。



* 想画まめ知識



「稲刈り」 鈴木カツヲ 画1 (116)

私がこの想画を気に入ったのは細かい稲の表現です。黄金に光っているような色の塗り方が、心に響きました。また、人物の一人一人の動きまでよくわかり、昔の稲刈りの様子や家族の協力の姿が伝わってきます。

「稲刈り」 6年 奥山芽郁



「たき火」 鈴木清八 画6 (819)

宿泊学習の時にキャンプファイヤーをした思い出を、このたき火の想画をみて思い出しました。キャンプファイヤーの火を囲んでみんなが一つになりました。この想画からもみんなで楽しい話をしている声が聞こえてきそうです。

「たき火」 6年 小野愛空

【温かい想画(1)】

この想画を描いた子どもたちの温かい眼は、当時の教職員によって育てられた賜物です。そのことについてこれから3か月にわたって低中高に分けて書いてみたいと思います。

～描くことの楽しさを見つけさせる～<低学年>

- ①「絵を描くことは面白いことだ」という心持にさせる。
- ②子どもの生活表現を重視する。
- ③単に描くことだけに固定させないで、他の一般生活を話し合わせ考えさせる。
- ④手が思うように動くように、どんどん絵の練習をさせる。
- ⑤作品には、力を入れてほめ、けなさない。長瀬の環境のすばらしさを知らせる。

